

大正五年一月一日

御即位第一ノ春ヲ迎フ。聖壽萬歳ヲ祈リ奉ル。例年ノ如ク雑煮ヲ祝フ、面白ク無イナドト言ヒナガラモ何トナク皆元気ヨシ。圓山ノ神社ニ詣スル人年始廻礼ニ行ク人正月八何トナク忙ハシ。

一月二日 本日撃劍柔道ノ稽古始メアリ

一月三日 宮部先生ヨリ舎生一同ヲ御招待アリ、午後六時頃ヨリ出掛ケ、トランプ、カルタニ組ニテ一時頃マデ遊ビ盡ス后陸、空気、水ノ遊ビニ移リ帰舎セシ八十二時ナリ

去月三十一日ニ新聞雑誌ノ競賣ヲナセリ

朝日 (三十六銭) 岩下君

讀賣 (三十銭) 山崎君

タイムス(三十銭) 日野君

太陽 (二十五銭) 安達君

一月七日 冬期休暇愈々本日ニテ終リヲ告ゲントス 高田君幌内ヨリ帰舎ス

一月八日 第二學期ニ入ル、コンディー宣告アリ、悲喜ニ至ルノ感アリ。

一月九日 小野君函館ヨリ帰舎ス

一月十四日 本日委員会アリ。佐藤君ヨリ各委員ニ対シテ諸注意アリテ后、月次会ニ關スル相談アリ、来週土曜日(廿二日)ニ開クコトニ決定ス。今回ノ月次会委員八左ノ如シ  
青木君、日野君、岩下君、逸見君

一月十七日 月次会委員ノ相談会アリ

一月二十日 青木君ト宮部先生ニ月次会ニ御出席下サル様御願ニ行ツタガ、土曜ニ八札幌農大ノ同窓会ノ總會ガアル相デ、御出席ハ出来ヌトノ事。尚ホ石沢氏モ御出席モナキ由ナレバ内田氏一人ノミナラン

一月二十二日 夕食ヲ四時半ニ開キ牛鍋ニ先ヅ腹ヲ作ル 其レヨリ例月ノ演説会ニ入り左ノ諸君ノ演説アリ

開会ノ辞 日野君

一、共同一致 高橋君

二、土の黨 小野君

三、入舎ノ挨拶 加藤君

四、未定(軍国主義) 尾門君

五、未定(口) 山崎君

六、我カ国ハ何ヲ以テ世界ニ

範ヲ垂レントスルカ 佐藤君

(内田氏ハ他ニ会アル由ニテ其レニ行カル)

終ツテ餘興ノ騒ギニ入り十二時少シ前散会

二月一日 本日ヨリ土木学科一年渡辺君入舎ス 近頃急ニ寒カリシ為カ病人甚ダ多キハ遺憾ナリ、佐藤君、日野君、岩下君、逸見君等

二月二日 日野君火鉢使用ス、本日競賣ヲ行ヒ次ノ如ク決ス

朝日新聞（二十七銭） 岩下君

讀賣 "（二十七銭） 高田君

タイムス（十八銭） 佐藤君

太陽（二十八銭） 小松君

二月六日 本日卓球大会アリ、初メニ紅白試合ニテ番組八次ノ如シ。

紅軍 大将小野 副将佐藤、山崎、青木、高橋、小河原、高田、鈴木、小朽、尾田、  
渡辺 優待、山崎、高橋、小松三君

白軍 大将中島 副将小 、中島、岩下、逸見、鷹野、安達、亀井、加藤、日野、国  
枝、優待 国枝、亀井、中島

優待同志ノ試合ニ入り山崎君、中島君ニ勝チテ紅軍ノ勝利二期ス

廻り試合ハ中島君ノ七人、小村君ノ五人、佐藤・岩下君ノ各三人等ニテ終リ後、茶菓ノ  
饗アリ。十二時大会ヲ終ル。国枝君退舎ス。

二月十四 本日委員会ヲ開キ本月ノ月次会ニツキ相談ヲナス。次回ノ土曜日トナルナラン  
ヲ其ノ前日ガ故森氏ノ一週忌ナル故都合ヨケレバ十八日ニ開カルヤモ知レズ

二月十五日 十九日二月次会ヲ開ク事ニ決ス。当日八宮部先生ヨリ故森氏ニツキテノ御話  
アルベシ

当今回ノ委員ハ左ノ四名ナリ

亀井君、加藤君、木村君、小松君

二月十六日 高田稔君退舎ス

二月十三日 本日時計台ニテ辨論部主宰ニカカル擬国会開カル。蜻蛉帝国ト称シ進歩党（政  
府党）自由党（反対派）中立ノ三派ニテ大イニ辨論ノ雄ヲ振フ、当舎ヨリモ小河原、日  
野、渡辺ノ三自由党議員ヲ出スノ光荣ヲ擔ヘリ

東北帝国大学学生擬國會

蜻蛉帝国八憲法第四十一條ニ據リ大正五年二月一日ヲ以テ札幌ニ召集セラレタリ

国会々場 北一條時計台

集会期日 二月十三日正十二時開会

進歩党内閣

總理大臣 沢田退蔵 大蔵大臣渡瀬次郎 内務大臣尾崎卓郎 外務大臣加藤正次  
海軍大臣沖野丈夫 司法大臣大島幸吉 文部大臣福士貞吉 陸軍大臣野口 静 拓  
殖大臣上原福太郎 国会議長東 武 書記官長西 佐久一

進歩党 総務 齊藤良秀 幹事真鍋尹正 " 武者主計

自由党 総務 奥田 或 幹事佐藤醇蔵 " 友田 愛 " 江村徳三 " 佐々木我山  
" 櫻井芳二郎 其他十数名

無所属 田添元 前田三郎 其他数名

議事日程

- 一、議長開会ヲ宣ス
- 一、施政方針演説 沢田總理大臣
- 一、財政方針ニ就テ 渡瀬大蔵大臣
- 一、外交経過報告 加藤外務大臣

日程

- 一、學制改革ニ関スル豫算案 福士文部大臣
- 二、海軍拡張ニ関する豫算ノ件 沖野海軍大臣
- 三、陸軍 " 野口陸軍大臣
- 四、北海道並ニ樺太ヲ合併シ  
北海總督ヲ置クニ就テノ  
豫算ノ件 上原拓殖大臣
- 五、選挙法改正案 提出者 自由党

二月十九日 午后月次会ヲ開キ併セテ故森氏一週忌追悼ノ会トス

初メニ委員木村君ヨリノ挨拶アリ。其レヨリ次ノ諸君ノ演説アリ。

調和 小野君 入舎ノ感 渡辺君 自然 尾内君 所感 山崎君 奮闘の生涯 鷹野君 Youth 亀井君 ゼネラルな話 佐藤君

後宮部先生ヨリ故森氏生前ノ追懐談アリタリ 今日決算アリタリ

三月二日 新聞雑誌ノ競賣ヲナス

朝日新聞 二十銭 安達君  
讀賣 " 二十二銭 渡辺君  
タイムス 二十銭 加藤君  
太陽 十一銭 中島君

本日旧舎生ノ諸先輩ニ「楓林」ニ原稿ヲ寄セラレン事ヲ依頼シ尚舎生諸君モ原稿ヲ募集ス

三月十六日 本日ヨリ第二学期試験始ル

三月十九日 小河原君、管原君火鉢ヲ使用セラル

三月二十二日 中林君、服部君火鉢を使用セラル

三月二十四日 中島君、逸見君午后九時半ノ汽車ニテ歸ル

三月二十五日 月次会ヲ開ク 委員左ノ如シ

尾田君、小西君、小河原君、小野君。宮部先生御出席セラル 今晚九時半ノ汽車ニテ中林君帰省セラル 又今回ノ月次会ノ終リニ委員ノ改選ヲ行フ

文藝部 小松君 食事部 小野君 衛生部 亀井君 会計部 加藤君 運動部 岩下君

三月二十八日 岩下君八幌内へ、山崎君、青木君八深川へ何レモ本日午前九時十五分汽車ニテ出発ス

三月二十九日 服部君月形へ旅行ス（午前九時出発）

三月三十日 文藝部ノ事務引キツグ

三月三十一日 鷹野君俱知安へ旅行 午前八時五十分出発

二円十銭 一月分文藝部費入る

新聞雑誌の競賣を行ふ

讀賣新聞 廿二銭 高橋君

朝日新聞 廿五銭 管原君

タイムス 廿四銭 小野君

太陽 十八銭 山崎君

四月二日 岩下君炭を使用せらる、服部君帰舎ス 午後加藤授君退舎ス

四月五日 午前八時半頃鷹野君帰舎

同日午後十時半頃 青木君帰舎

四月八日 本日より第二學期始まる

四月十一日 逸見君帰舎セラル(夕食ナシ)

四月十六日 午前八時頃中島君帰舎ス

四月十七日 鷹野君炭ノ使用ヲ止ム(本日ヨリ)

同日 服部君炭ノ使用ヲ止ム(本日ヨリ)

四月十九日ヨリ炭ノ使用ヲ止ム青木君、小松

四月廿一日 本日ヨリ炭ノ使用ヲ止ム 小河原君、管原君

四月二十二日 本日室替ヲ為ス 抽籤ノ決果室ノ組合せ左ノ如シ

亀井君、中林君、一号室 岩下君、管原君、二号室

青木君、日野君、三号室 小野君、山司君、四号室

山崎君、五号室 安達君、渡辺君、六号室

鷹野君、逸見君、八号室 尾内君、九号室

木村君、小松、十号室 小河原君、中島君、十一号室

小西君、十二号室

四月二十三日 火鉢使用者左ノ如シ

日野君、青木君、小西君、尾内君、木村君、小松

四月十六日 舎生総出ニテ物置裏ノ開墾ヲナス 了リテニスコートノ修理ヲナシ午前全部  
ヲ了ル

四月廿二日 月次会ニ関シテ委員会ヲ開ク、廿九日ト決定ス

四月廿七日 小西君本日ヨリ炭使用ヲ止ム

四月 日 加藤君退舎ニ付中島君代ッテ会計員トナル

四月廿八日 本日四月分決算ヲナス

四月廿九日 本日月次会ヲ開ク、委員左ノ如シ

中林君、中島君、高橋君、管原君

夕飯ヲ少シ早メ四時半頃ヨリ始メ肉ヲツツク。七時中林君ノ開会ノ辞ニ始マリ左ノ諸君  
ノ演説アリ

御世辞、逸見君 職業、渡辺君 対岸ノ火事ヲ見テ、小野君 雑感、尾内君 無  
題録、木村君 思ノマヽ、亀井君 犠牲ト修養、佐藤君

本日宮部舎長ト石澤氏御出席下サレ、石澤氏ハ最後ニ辨士諸君ノ演説ニ加ヘラレル所ガ  
アッタ 十時半会ヲ閉ヂ、例ノ如ク余興ニウツリ十二時迄騒イダ

四月卅日 夕食後競賣ヲナス

朝日新聞 廿三銭 亀井君

讀賣新聞 廿一銭五厘 小西君

タイムス 廿銭 山崎君

太陽 廿九銭 中島君

四月卅日 林学実科二年高橋秀雄君入舎サル(食事ナシ)中林君退舎(夕食止)

五月五日 各科ノスタンド成リ午後一時半ヨリ予選アリ

五月六日 曇天、風ナキモキズカハシ。六時合図花火三発、八時半競技開始 幌都ノ観客  
ハ次第ニ集リ午後ニ及ンデ立錐ノ餘地ナシ。

各科選手競争ニ及ンデ各科ノ応援猛烈ヲ加ヘ殺気場ニ満ツレル、出発ノ砲ナリテ先ツ白  
帽ニ名先頭ニアリ、決勝点前二十間程ニシテ農学実科清水君次第ニヌキ白帽ノ一名ヲヌ  
キ尚先頭ノ白帽ヲヌカントシテ肩ヲ摩シテ入ル、審判官ハ白帽ノ平岡君ヲ一等トミトメ  
桃色帽ノ清水君ヲ二等トス

之レガ為タチマチ問題ヲ起シ実科全部運動場ニ押ヨセ審判官ニ説明ヲモトム。審判官ハ  
言ヲ左右シテ説明ヲ与ヘズ殊ニ最後ニ二選手ガフレ実科ノ清水君ガ横ニ倒レントシテ方  
向ヲ変ジテ決勝点ニ入りタルニ對シテ何等考ヘル所ナク審判官ハ決定サレ、優勝旗ハ其場  
ニ於テ予科ニ授与サル。カクシテ当日ノ運動会ハ終リヲ告グ

五月九日 小松君病氣静養の為め一時外泊せらる。文芸部委員を小松君より引次ぐ、青木  
高橋秀雄君本日午前九時列車にて野幌に修学旅行せらる。朝食あり。小松君より努力論、  
精神主義の二本を文藝部に寄贈せらる。

五月十日 午後二時列車にて亀井君室蘭方面に旅行せらる。

五月十一日 来る廿日月次会、並送別会開催に付当日委員を掲示す。

渡辺君、山司君、青木君、服部君、亀井君の五君とす。普通の月次会にては委員四名な  
れど此度は初めて委員をやる人三氏ある故都合により五名とす。亀井に至る前安藤君、  
岩下君は十九日旅行ありて又逸見君は縣人会送別会にて都合悪しく、日野君は試験前に  
て暇あらず。故に以上五氏を委員に定む。

五月十二日 駒のいなゝき...小波著 三叉文存...竹越三叉 右の二冊富貴堂にて購入す。

五月十三日 林学実科二年高橋秀雄君旅行より帰る。食事あり。

午後二時半より寄宿舍コートに於て庭球大会を開く。番組次の如志。

小堀・篠原 - 鷹野・小野

上杉・工藤(来賓) - 山崎、逸見

山田・広崎(来賓) - 服部・安達

小野・岩下 - 鷹野・尾内  
佐藤・高橋 - 大河内・工藤（来賓）  
青木敏夫・高田（来賓） - 小西・中島  
青木 作・山崎 - 小堀・篠原  
大河内・廣崎 - 工藤・上杉

五時半にゲーム終了志、図書室にて茶菓の馳走あり。

今晚道廳技師山田勝伴氏の南洋視察談あるべき筈なり志が、山田氏都合により来週火曜日に来舎下さる由通知ありたり。

本日午後より第五、第七、第九号室は大掃除をなす。圖書室及食堂の天井を人夫をやといて掃除せ志む。

五月十四日 今日は昨日せ志他の全ての室の大掃除をなす。十時頃より雨ぼつ／＼降り始め掃除を急ぎ成志終る。

全日 午後十時半頃列車にて亀井君旅行より帰る。全日食事無志

五月十五日 亀井君第一号室の大掃除をなす

五月十六日 予科講堂前の運動場において北九條小学校の運動会がありたり。

五時半より来る廿日の月次会並送別会委員の相談をなす。

七時半より道廳技師山田勝伴氏の南洋視察談を聞く。文藝部にて筆記す。

五月十七日 天気晴朗 円山公園の櫻会をたけなはと咲き出で、猫も杓子も皆うかれ出たる。

五月十八日 日本晴れにて五時、朝日東天に昇ると同時に我舎の健兒十三四名は、或は和服に或は洋服に身を装ひ、円山の花見に出かけたり。七時一同帰舎す。

五月十九日 林学実科一年岩下君、足立君、農実一年高橋節雄君の三名幾春別方面に旅行に行きたり。

月次委員として本日午後道廳に行きて石沢達夫氏及蠣崎知二郎氏に明日の送別会に出席を乞い志が、石沢氏は土曜午後九時にて函館方面へ出張せらる由にて、又蠣崎氏は用事多忙のため出られぬと申された。

夜は石沢氏を訪問したるが留守にて内田氏も仙台に旅行中との事、宮部先生を訪問す。

五月二十日 予定の如く月次会並送別会を開く。当日午後五時半宮部舎長始め副舎長佐藤君次に山崎君鷹野君尾内君の四人の卒業生諸兄と共に晚餐を共にす  
食事献立次の如志

一、口取...キントン、ヨーカン、夏ミカン、卵

一、茶碗蒸...鶏肉、ユリ、ミツバ、松タケ、

一、マスの照焼

一、酢のもの...イカ、キウリ

一人前四十銭位の予定なりき。

送別会順序次の如志



六月二十七日 午前三十分の列車にて林学実科一年級岩下幸男君帰省せらる。今日月次会を開く。当日委員左の如志。

安達君、逸見君、日野君、木村君

順序次の如志。

開会之辞 日野君

入舎之感 五藤君

有志演説 鷹野君山崎君高橋君（節）木村君

訓示 宮部舎長 佐藤副舎長

就任挨拶 亀井君

訓示 前副舎長石澤氏

閉会の辞 日野君 了りて茶菓・抽籤餘興にうつり有志餘興あり盛会なりき。

六月廿九日 山司君午前五時名寄へ旅行せらる

六廿日 木村君、渡辺君実習の為盛岡へ旅行せらる、午前十一時。

六月卅日 青木君午後十一時四十分実習の為、留萌に出発せらる。

七月一日 小河原君午前五時半実習の為小樽へ出発せらる

七月二日 高橋（秀）君都合ニヨリ外泊セラル

七月五日 成績発表サル 午後九時半尾内君帰郷

七月六日 小松君実習ノ為根室へ向ケ出発セラル。午前九時半ヨリ図書館ニ於テ卒業式挙行 北條總長 小山副参政官来校。卒業生佐藤、山崎、鷹野、尾内四君ナリ 高田君寄宿ニ泊ラル夕食ス。

七月十日 晝十時の汽車ニテ山崎氏帰国セラル。剣道ノ素要深イ為寄宿ニ一重鎮トシテ他ヨリ認メシタリシ同君モ愈今日思出多キ札幌ヲ後ニセラレタリ。見送りノ人十数人、日野君主唱ニテ萬歳ヲ唱フ、晚九時半ニテ八鷹野君又帰国セラル 温厚篤實ノ好紳士ナリ 君ガウルオミアル眼中ニ八十分離別ノ悲シミノ認メラレタルアリ 同汽車ニテ八高橋君（秀雄君）帰省。同君八今朝帰舎セラシ食事一日分ナス

七月十三日 山崎、鷹野、小野君等ヨリ手紙来ル 小野君所ニテ遊ビタル旨書キアリ。今在舎生 佐藤君、小西君、中島君、五藤君、高橋君、服部君、田野君、亀井君、山地君 電燈会社ヨリ封シニ来ん

七月九日 山地君旅行ヨリ帰シ明朝ヨリ食事

七月十四日 山地君昼食後月寒ニ実習トシテ出発セラル 夜去月十六日勇敢ナル飛行をせられたる鳥人アトスミス氏帰国ノ為東京ニ向フ、見送り人煩ル多シ

七月十五日 高橋君十一時ノ汽車ニテ帯広ニ向フ

七月十七日 夜小西君ノ部屋ニテ晚餐ヲ共ニス。後興ズルコト多時 青木君風邪ノ為帰札セラル 食事八明朝ヨリ 新入学生一部ノ人ニ宛テ当舎規則 三十二通ヲ送ル

七月二十一日 昨日高橋君ヨリやまべ澤山送リテ呉レタリ、在舎生一同珍ラシキママニ賞味シ且ツ八君ガ敏捷ナルニ驚ケリ 一時頃佐藤君来ル 二十四日徴兵検査受ケル為帰国

スル様トノ電報来ル

佐藤君非常ニ急ニテ取ル物モ取アヘズ用意セラル 然シ尚余裕ヲ作りテ十時頃ヨリ二時間計リ最後ノ寄宿舍ニテノ雑談快話セラル、在舎生一同集リテ賑ハウ

君ガ最後ニ企テラレシ連句俳諧ノ開函ヲ行ヒ各句狂句ニ愉快ニ時ヲ費ス

佐藤君尻をかくして月夜かな

ハ傑作ノ一ナリキ

二十二日 五時半出立セラルニ付キ皆見送り行ク 俄カニ事起リテ立ケ行カルルニヨリテ名残リモ惜シマレズ帰国サル。再ビ来週セラレズトハ思ハレズ

青木君モ六時ノ汽車ニテ留萌ニ向ハル

宿舍頓ニ寂シクナリテ火ノ消エタルガ如シ。

在舎生愈左ノ六名 小西君 中島君 五藤君 服部君 日野君 亀井君

二十三日 玄関ノ屋根ノ飾リ今年十八年目ニシテ落チル 妙ニモ見エタリシ 此飾リモ十八年前ニハハイカラナリシ飾装ノ品ナリシハ思ヘバナツカシ 皆記念品トスヘシ等戯談ス 此頃天気定マラレズ

服部君此頃少シク具合悪シトテアルバイトヲ止メ居レリ

此頃ノ新聞ニテハ北海医科大学設立ノ件は確定ラシク大正八年ヨリ予科一年ノ募集スル事ニナルベシ 予科ノ教室ハ何レアノ広地ニデモ立ツモノカ

二十八日 夜決算ヲナス 本月モ可成り安カラズ 三十日居タル人ニテ八円余位ナリ

尤モ大抵ノ人帰省ノ為少額ナルハ勿論ナリ

二十九日 夜 日野、五藤両君帰国ノ為出発。五藤君八九月十二三日頃、日野君八九月末日帰札ノ予定ナリト。茲ニ至リテハ寄宿舍ハ愈四人トナレリ、寂シキ感モセラル、ナリ名優八百蔵一派来ル 寄宿ヨリモニ三人財布ノ底ヲタタイテ奮発スルモノアリ

此頃大隈候辞職ノ意アリテ政界ノ風雲急ナルモノアリ。後継ハ西園寺カ寺内カ原氏カ未ダ定言シガタシトカ。

八月四日 朝八時ノ汽車ニテ鷹野継次君来札セラル 今度釧路支庁在勤ト決定、同地出向ノ途中ナレバナリ

八月六日 朝八時ニテ鷹野君釧路ヘ向ケ出発セラル 本日ノタイムスニハ同君ノ辞令乗リ居リテ喜ビノ情禁ズルヲ得ザリキ

同君モ道庁ト関係アル役所ノ事ナレバ度々此地ヘ来向ノ事ナラン。寄宿舍一同四人銭函海水浴ニ出掛リ。本日タイムス主催割引汽車アルコトトテ人極メリ 多ク九時ノ汽車ノ如キハ 有二十七台ナリキ 本年ノ暑サニハ サスガノ北海道ノ海岸モ内地ノ夫ニ大差ナキ程ナリ

八月十五日 午後九時半の汽車にて服部君樺戸の親戚へ行く。共々本月十五日より服部君の客人として来たりし英君も御らる

八月二十九日 本日より北海道畜産連合会主催の畜産共進会が遊園地で開催。向ふ十日間、

初日の入場者一万人以上と

八月卅日 夜本月の決算を行ふ 山司君帰舎せられ明朝より食事

九月二日 午後服部君月形より帰舎せらる食事は夕食より

農学実科一年白川君午後入舎せらる

食事は夕食より、午後十一時の汽車で亀井君帰舎せらる

九月八日 午前農学実科一年高藤君入舎せらる

九月九日 午前林学実科一年生村岡時夫、田中悦郎両君、水産学科一年生岩内義雄君入舎せらる

九月十日 朝岩下君帰舎 小野君帰舎食事なし 午後青木君帰舎 何れも健在にて幸なり

九月十一日 入学式アリ 一年級ノ諸君登校、専門学校ノ習慣ニ染マヌ人達ノ気分ノ心地良サヨ。朝食後七時半ト云フニ最早学校ニ行カンカ等言フ人モアリキ。熱心ノ氣ノ伺ハシテ頼モシカリキ

夜、小杉君、高橋君帰舎セラル。皆ニ新進氣鋭ノ士 話ス声ニ自ラ元氣ナリ 何トナリ舎内活氣ヲ以テ満タルガ如シ

青木金作君退舎セラル 惜シムベシ。保科実雄君入舎セラル 夕食アリ

九月十二日 植崎君入舎サル、食事ナシ

十一時安達君帰舎セラル

十三日 管原君帰舎サル 食事アリ

午後渡辺君帰舎サル 舎内活氣満ツ

十四日 午後予科一年 犬飼哲雄君入舎サル 夕食アリ

十七日 内山齡君入舎サル 氏ハ水産学科一年新進氣鋭ノ士 舎ノ為ニ喜ブ 夕食アリ

九月廿日 午後水産一年岡部彦庫君ハ入舎サル。イヨイヨ満員ノ盛況食事アリ

九月廿一日 午後十時頃亀井、小西両君旅行セラル。亀井君ハ駒ヶ岳方面ニ小西君ハ網走方面へ

九月廿五日 未明小河原君修学旅行ニ室蘭方面へ食事ナシ

九月廿七日 安達、服部二君退舎セラル。吾等ハ親愛ナル二兄ヲ失ヒタル事ヲ深く惜ム

九月卅日 月次会ニ兼ネテ歓迎会ヲ開ク

委員 岩下、五藤、小西、小松君

式次

開会ノ辞 小西君

旧舎生總代 小野君 演説

有志 中島君 高橋君、歓迎演説

亀井君演説

宮部先生 訓辞

新入生諸君全部答辞ヲ兼ネ入舎ノ感ヲ述ベラル

終リテ茶菓ノ饗應アリ 尚ホ今学期委員選挙アリ 当選ノ新委員左ノ如シ

食事係 高橋君 文藝係 五藤君  
衛生係 山司君 運動係 植崎君  
園藝係 管原君 会計係 小西君

十月一日 秋季大清潔法施行。快晴ナラザリシモ午前中ニ全部終了ス。今月佐藤秀太郎氏ノ置土産トシテ雑 5冊文藝部ニ寄贈アリタリ

十月六日 文藝部ニテ水沫集(古)一冊購入ス。

近ク議会アル為テニスノ練習猛烈ナリ。

十月八日 軽川原野に於て兎狩を行ふ 午前六時二十分出發 同勢廿五人 七時半頃より狩り始めたるが午前中獲物なく午後に至り一匹を得たり、四時出發四時半一同凱歌を奏して帰舎せり。今日農学実科一年板垣退蔵君入舎せらる。本日内閣更迭寺内正毅大命奉受す。

十月十日 文武会新入生歓迎会を真駒内にて催さる マラソン競争アリ 第一着農実五十嵐君、二着本科平岡君、三着本科崎山君なりき

十月十一日 第四師團ノ機動演習は昨日ヨリ札幌近郊に移り来り。今朝来砲声殷々蹄声々たり。此日、本舎秋季庭球大会を開く 試合番組勝負左ノ如シ

紅

内山君、犬飼君	山司君、菅原君
村岡君、板垣君	五藤君、小松君
保科君、齊藤君	白川君、田中君
岩田君、岩下君	亀井君、小河原君
岡部君、小野君	小西君、中島君
植崎・高橋君	青木、安達

十月十四日 土曜舎生六名ヲ除キ全部常山溪ニ遠足ス 此日天気晴朗秋気肌ニ爽ニシテ路ノ遠キヲ忘レシムル許クナリ

十月十七日 神賞祭ナリ午前十時ヨリ本学図書館に於テ橋本博士開講廿五年記念祝賀式挙行舎生一同モ参列セリ 夜六時ヨリ祝賀提灯行列を催セリ 本日當舎創立第十八回紀念会ヲ来ル十一月四日ニ開ク事ヲ委員会にて決議し準備委員ヲ定メタリ、即チ左ノ如シ

一、接待係 中島君(主任) 犬館君、岩田君、白川君

二、会場係 五藤(主任) 管原君、内山君、保科君、齊藤君、板垣君、田中君

三、餘興係 植崎君(主任) 外全部

四、食事係 高橋君(主任) 小河原君、小野君、小松君、山地君、岩下君、岡部君、村岡君

五、會計係 小西君

六、庶務係 亀井君 以上

十月十八日 夜十一時頃日野君帰ル 食事無シ

十月廿一日 管原君退舎セラル。惜シム可シ 食事無シ

第七師團機動演習八本日師團對抗演習 當石狩平原二行フ 本学ニテモ豫科各学年全部之レニ参加シ黎明月寒方面ニ於テ活動シタリ 午後琴似競馬場ニ於テ閱兵式アリ大学学生生徒皆參觀セリ

十月二十五日 新作寮歌の披露ヲシ後一同図書室にて練習を為シタリ、今朝本学ニ皇后陛下皇太子殿下ノ御真影拝戴式アリタリ

十月廿六日 各室にストーブヲ据ヘ付ケタリ。未ダ燃カズ。昨日ヨリ丸井呉服店三階ニテ本学黒百合会洋画展覧会を開キ、本舎ニテモ五藤、内山君ハ多数出品シタリ。

十月廿八日 午後經濟學講堂に於テ堀内中将ノ講演アリ 舎生多数聴講ニ行タリ。

本日、岩下幸雄君退舎セラル、惜シム可シ。食事アリ、午後土木工学科三年級トテニスノ試合ヲナシ本舎生最後ニ大勝利ヲ博ス。

〔ココニ次葉試合結果ガ入ル〕

十月三十日 今日ヨリ舎生全部火鉢ヲ使用ス

土木科選手	本舎生選手
竹村・	岩下
大井	高田
石野	小野
青木	岡部
秋野	村岡
柏崎	田中
高橋	安達
小坂田	鈴木
江頭	高橋
赤川	植崎
馬場	中島
秋野	小西

十一月三日 立太子禮挙行

十一月四日 本舎第十八回紀念祝賀式挙行

午後五時半食堂ヲ開ク 来賓ハ宮部舎長、篠原、小堀両君ニシテ蠣崎氏、石澤氏等ハ他用アリテ臨席セラレザリシハ遺憾ナリ。

六時過開會、先ヅ亀井君ノ開會ノ辞ニ始マリ板垣君ノ入舎ノ辞アリ、次ギテ諸況報告ヲナセリ。

文藝部ハ主ニ文庫ノ新購入寄贈ノ図書ヲ紹介シ文藝部トシテ希望ヲ述ベタリ。

運動部ハ九月以来ノ事業ニ付簡單ニ報告セラル。

會計例年ノ通詳細ニ昨年十一月以降ノ食事ニ関スル總支出收入ヲ報告セラル

副舎長ヨリ舎況ノ報告アリ、人事、舎費、會計、舎ノ前庭修繕ニ付テノ報告アリタリ。

「次デ舎長ヨリ懇切ナル御訓話アリ、主ニ禁酒克己奮励セヨト云ウ事に種々ナル御自身の御験経談ヲ加ヘ一時間余リ説カレタルガ言々句々我等ノ肝ニ銘シテ深く長く忘ルルアタハザル処ナリ。

之ニ先立・中嶋君八舎生一同ノ総代トシテ祝辞ヲ述ラル、終リニ新作寮歌ヲ委員披露シ、又「魔風荒ぶる」の歌ヲ合唱シ、舎ノ萬歳ヲ舎長ノ発声ニテ三唱、宮部先生萬歳ヲ亀井君ノ発声ニテ三唱、閉会ス 時七時半。

八時ニ垂んトスル頃漸く餘興開始。

番付ヲ見ルニ左ノ如シ。

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 一、尺八合奏              | 五人組    |
| 一、手品                | 小松天二   |
| 一、琵琶歌               | 齊藤金心   |
| 一、鴛鴦ダンス             | 豫工組合   |
| 一、二 加               | 亀井小西両君 |
| 一、シッペイガヘシ           | 水産座    |
| 一、琵琶歌（召集令）          | 植崎錦新   |
| 一、独楽廻シ              | 松井元帥   |
|                     | 世界漫遊組  |
| 一、切腹（喜劇）            | 林科一座   |
| 一、追分（尺八）            | 比良野先生  |
| 一、閻魔大王              | 平 一座   |
| 一、劍舞                | 保科来風   |
| 一、新体詩               | 犬飼大岸   |
| 一、活人画 甲武信ヶ嶽惨状ノ場（中止） |        |
| 一、活動                | 林科一座   |
| 一、手品                | 岡部岩太   |
| 一、せむし（西洋劇）          | 実科一座   |
| 一、手品                | 小河原君   |
| 一、 "                | 亀井君    |
| 一、 "                | 小西君    |
| 一、謡曲（紅葉狩）           | 伊津富七   |
| 一、名古屋甚句             | 保科君    |

此外飛入ノ面白キ餘興数番アリ、二時ニナル頃漸ク閉会ス

十一月六日 夜、日野寿作君退舎セラル。同君八殆ンド満二年在舎セラレタリシニ今突然去ラル、ハ惜シム可シ。文庫ニ図書一冊寄贈アリタリ

先達、舎ノ干大根ヲ少シ盗マレ物騒の感じを与ヘタリ。

十一月九日 青木金作君入舎セラル。 月始退舎セラレタリシガ今又帰舎アリタルニ大ニ

喜ブ処ナリ、食事ナシ。

十一月十一日 農学実科林学実科第一年級諸君五名、地質見学旅行の為夕張にユキ、食無し。

十一月十二日 午後前庭ノ掃除ヲナス、後茶菓ノ饗応アリ、夜ニ入り旅行組帰舎話ヲ聞ク、夕食アリ。

十一月十八日 夕食後委員会ヲ開、月次会其他ノ件ニ付キ相談ス。本日午後撃剣部ニテ豫科對實科ノ試合アリ、本舎生ノ内数名参加セラレタリ。

十一月十九日 中嶋君内山君四日間火鉢ヲ使用セラル。

月次会委員左ノ如シ、今日夕食後委員諸君相談アリタリ。

村岡君、中嶋君、小野君、小河原君

数日来暖気甚シク華氏六十二三度ニ上リ晝ハストーブヲ要セザル有様ナリ。

十一月廿二日 水曜日明日神嘗祭ナレバ彌二月次会ヲ開ク、正四時半ヨリ食堂ヲ開キ肉鍋ニテ珍ラシク飽食シタリ、来賓石澤氏工藤君臨席ノ上六時半ヨリ開会、今回ハ演説盛ナリキ。

開会之辞 小河原君

一、複舎ノ感 青木君

一、感想 五藤君

一、落語 内山君

一、寄宿舍刷新ノ意見 保科君

一、月次会ノ目的 高橋君

一、立志 田中君

一、未定(勉強セ ) 小西君

一、静思 小野君

一、偶感 犬飼君

一、思のまゝ 亀井君

一、閉会ノ辞 小河原君

尚ホ石澤氏ハ寄宿舍生活ニ對スル各自特ニ新入の人々の注意スベキ心掛及ビ当寄宿舍生活中ノ研究修得ス可キ事等ニ付極メテ懇切有益ナル御演舌ヲ約一時間ニ亘リセラレ、又、工藤君モ終リニ心ヲ統一シ或ル信念ノ下ニ活社会ニ立テル吾レハ之ノ修養ヲ当舎ニ在リシ時全フシタル旨ノ演舌アリケリ。

十一月廿五日 中嶋君三君退舎セラル。君ハ在舎三年常ニ其聰明謙徳ノ資ヲ以テ吾等ニ範タリシニ今突然コノ事アリ真ニ惜ム可シ、夕食アリ、又、犬飼哲男君モ退舎シ尚志社ニ行カル

十一月廿六日 中嶋君ヨリ文藝部ニ左ノ図書寄贈アリ、青島義記、日本奇人傳、破戒  
尚ホ文藝部ニテ「牛」ヲ購入ス。

十一月廿九日 本日決算ヲナシ発表ス

十一月廿日 競賣ヲ行ヒ左ノ如ク決ス

太陽 十二月号 十八銭 高橋秀雄君

朝日 十九銭 田中君

タイムス 二十銭 五藤君

讀賣 十七銭 同

十二月一日 農学実科第一年級宮本誓晃君入舎セラル、食事無シ。

十二月七日 一昨夜兼テ入營中ナリシ北村卓爾君帰舎セラル。今日ヨリ食事アリ。

十二月拾日 本日ヨリ小松君炭使用

十二月十二日 夕食後委員会ヲ開キ、姥ヘノ年末賞与ノ件、月次会ノ件ヲ議決ス 委員左ノ通り。

高橋節雄君 白川君 田中君 岡部君

十二月廿日 本日ヨリ小松君石炭使用

同廿一日 月次会、晚餐八委員ノ苦心ニナレル海苔巻ト稻荷ずし澤山アリ。珍ラシク食タリ。

六時半宮部舎長、蠣崎氏御臨席ノ上開會ス

今回八特ニ全部ノ舎生ノ五分間演説ヲ抽籤ニヨリ撰題セシメ各々得意ノ快辨ヲ揮ヒタル八大成功ナリシ。

一、開会之辞 高橋節雄

一、五分間演説

一、暮れゆく大正五年 板垣君

二、私の一番嬉しかった事 白川君

三、吾輩は鳥である 植崎君

四、ビリケンニ付て 白川君

五、花よりだんご 小河原君

六、一葉おちて天下の秋を知る 岩田君

七、吾が趣味 保科君

八、よしのずいから天をのぞく 齊藤君

九、寒国を歓迎す 内山君

十、寒國篤倒論 青木君

十一、我故郷 小西君

十二、大食論 岡部君

十三、窮鼠猫を噛む 村岡君

十四、身体の肥大を慾せず 小松君

十五、吾輩の健康法 亀井君

十六、倭少何をかなしえむ 高橋秀雄君

十七、雪隠哲学 小野君

十八、一將功成り萬骨枯る 山司君

十九、面白かりし五分間演説 田中君

二十、越中禪 五藤君

一、所感 亀井君

歳末雑感と副舎長ヲ北村君と共に務メルヤウス可キ旨、北村君歡迎ノ言葉ヲ述らん

一、帰舎感 北村君の入營中ノ種八有益ナル經驗談と舎生の覚悟に付半時間近く述べん

一、蠣崎氏御演説 小野君ノ雪隠哲学論ヲ他方面ヨリ解剖し来り、現代商業道德農業道德ノ頽廢たる事を実例ヲトク頗る懇篤ナル御訓話アリタリ。

一、宮部先生御話 小野君ノ節大食論ニ付御批評アリ、又五藤君ノ越中禪論ニ関連し外国ニ於て便所ノ装置下帯ノ緊メ方其他御經驗上ノ趣味深キソレラニ付テノ注意ナド御話しニナリ尚ホ冬期休暇中ヲ有益ニ過すようにとの御注意アリタリ、之レニテ一先ツ閉會、茶菓を饗シ、次デ委員選挙ヲ行ヒ左ノ如ク決セリ。

食事係 小松君 文藝係 小野君

会計係 小河原君 運動係 青木君

衛生係 内山君 終ッテ

旧文藝部員ヨリ今学期中ニ於ル同部會計ノ報告ヲナス。又年間ノ ばらいヲナシ、カクテ十二時半迄愉快ニ騒ギ唱ヒ散會セリ。

二十三日 朝五時半小野君出発 帰省セラル

二十五日 有志を率ひて三角山ニ爽快ナル滑走ヲ試シラル 同勢北村君以下三名。

二十七日 餅搗キヲ行フ、有志大ニ盡カシ十六枚ノ板もちヲ忽チニ拵へ上ゲ又紅白ノおそなへモ作りタリ

二十六日 夜決算ヲ行フ

二十八日 午前中文藝部委員主唱ニテ書庫ノ大整理ヲ行フ。全ク初メテノ企テトテ頗ル困難ナリシモ先ヅノ、一段落ヲつげ二十冊ノ紛失圖書ヲ見出シタリ。午後運動部ニテスキーノ雪山ヲ作ル 一同応援セリ。

数日来ノ吹雪ニ前庭ノ樹木ノ枝折損スルモノ多ク、昨日ハイタヤノ巨枝折レテ玄関前ニ墜落し凄マジカリキ。

三十一日 午前亀井君ト委員ト山鼻町ニ出向キ鶏一番購求シ来リ。宮部先生のお宅ニ参り進呈ス、雄目十六銭(五百匁アリ)雌目二十七銭(七百匁アリ)ナリシ。煤はらいヲ行ヒ各部屋トモ障子ノ修繕ヲナシ新春ヲ迎フルノ準備全シ、夜新年ノ新聞ヲ競賣ニ附ス結果左ノゴトシ。

朝日 三十五銭 北村君

讀賣 三十一銭 岩田君

タイムス十五銭 五藤君

八時ヨリ例年ノ通り忘年會ヲ開キ年越そばヲ喰ヒ且語り且ツ騒ギ十二の鐘ノ音ニ芽出度大正六年ノ新春ヲ迎へ萬歳ヲ三唱閉會ス。